



連載20

皆さんに正しく伝えたい禁煙の話題

子どもの命にかかわる1本のタバコで あることを知ってください

自見はなこ

参議院議員・医師（小児科医・認定内科医）

心でできることではありません。

小児科医として、子どもとタバコのことで最初に関わることは、「誤嚥」です。乳幼児は、口に入れてはいけない物を飲み込んでしまうことがあります。親御さんにとっては、まさかと思うことですが、手の届かない所に置いたはずのタバコを飲み込むことがあります。

誤飲事故で一番多く、かつ毒性が強いのは、タバコだということを親御さんが知っていれば、タバコの誤飲事故は防げると思います。乳幼児は、タバコが危険な物であることを知りません。年齢としては、17ヵ月

以下の乳幼児が多く、生後6ヵ月から11ヵ月の乳児に最も多いのです。

市販の紙巻タバコ1本の中には、16〜24mgのニコチンが含まれています。ニコチンの毒性は非常に強く、成人でも致死量は40〜60mgです。乳幼児の場合は10〜20mgです。その分量は、タバコ1本に含まれているニコチンの量より少ないのです。

タバコは水に浸すと、1時間程度でタバコの葉に含まれるニコチンが50〜70%溶け出します。もし、乳幼児が灰皿の吸い殻が浸った液体を飲むと、ニコチンが大量に吸収されてしまい、重篤な中毒症状として、呼

小児科医として最初に 関わる子どもの「誤嚥」

子どもさんを育てた方は、皆さんご存じだと思います。赤ちゃんは、何でも口に入れようとします。それは、舌を使って物の感触などを確かめようとすることで、個人差はありますが、一般的には他の機能が発達する2歳頃まで続くと言われてています。

親御さんとしては、子どもの手が届かない所にタバコを置いていたから大丈夫だと思っているものですが、実際に起きていることを見ると、安

吸困難、全身の痙攣、呼吸停止になる場合があります。

まさかと思うことが、実際に起きています。喫煙は百害あって一利なしと言いますが、タバコの怖さや害を知らない人は、まだまだ多いのです。

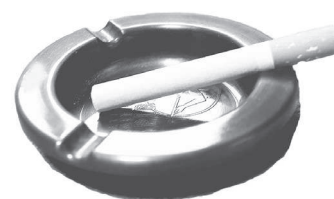
親御さんは、病院に運ばれた我が子が、飲み込んだタバコが致死量であることを知ると、多くの方が「ご免なさい、ご免なさい」と言っていて、その場で泣き崩れます。親御さんの不注意によることですが、タバコがそれほど危険な物だとご存じないために起きることもあるのです。

行なう治療は、飲み込んでから経過した時間にもよりますが、あまり時間が経っていないければ、口や鼻から管を入れて、胃の中を水で洗うこととなります。

その治療は、親御さんに見てもらうこともあります。タバコによって我が子が辛い治療を受けていることを直に見て、タバコの害を知ってもらうためです。

乳幼児がタバコを飲み込んでしま

乳幼児が誤って1本のタバコを飲み込むと 致死量になるほど強い毒性があります



市販の紙巻タバコ1本に含まれるニコチンは16〜24mgです。幼児にとって致死量は10〜20mgです。

乳幼児の3大誤飲事故

タバコ	20・2%
医薬品・医薬部外品	14・8%
プラスチック製品	9・9%

タバコを誤って口に入れて飲み込む乳児は、生後6ヵ月から11ヵ月が最も多く、親御さんの不注意によって起きることがほとんどです。日本中毒情報センターの「たばこ誤飲事故専用電話」に掛かった電話回数は年間に4285回(2018年)で、決して少なくはありません。年齢層別では、5歳以下の乳幼児が9割です。



自見はなこ (じみ はなこ)

昭和51年生まれ。筑波大学国際関係学類卒業、東海大学医学部医学科卒業、東京大学医学部付属病院小児科勤務、虎の門病院小児科勤務。日本医師連盟参与、日本小児科医連盟参与、東海大学医学部医学科客員准教授。平成28年、自民党比例代表(全国区)当選。参議院厚生労働委員会理事、自民党女性局長代理等を歴任し、厚生労働大臣政務官を務める。現在、自民党女性局長、コロナ対策分科会メンバー。

うケースは少なくないことが分かっていてるので、誤って飲み込んだ場合に嘔吐する物質がタバコに練り込まれています。それだからといって、どの子も吐き出すとは限りません。治療後は、一泊二日程度入院してもらい、親御さんには禁煙の講習を受けてもらうことがあります。

タバコが一番の原因と言われる子どもの病気

親御さんは、タバコのことでの注意しなければならぬことが、もう一つあります。それは、「乳幼児突然死症候群」です。赤ちゃんの呼吸が突然止まって死亡する場合があります。



そうになると、親御さんの悲しみは言葉にできないほどです。

厚生労働省の調査では、令和元年に78名が乳幼児突然死症候群で亡くなっています。割合では、赤ちゃん4000人に1人です。この数字は、赤ちゃんを持つ親御さんであれば、少ないと思う人はいないのではないかと思います。

乳幼児突然死症候群に罹る乳児は、生後2ヵ月から6ヵ月に最も多く、乳児期の死亡原因としては4番目に多いので、侮ったり、軽視したりすることはできません。育児環境の何が原因するかというと、一番多いのがタバコと喫煙習慣です。

両親が二人とも喫煙していると、喫煙しない両親の約4.7倍も「乳幼児突然死症候群」の発症率が高くなります。妊娠中の喫煙は、乳幼児突然死症候群に繋がることが調査から分かっています。お子さんが大きくなるまで成長を見守りたいなら、お父さんもお母さんも、喫煙は止めてくださいと、私ははっきり言います。喫煙のリスクは、多くの方に知ら

れているように思うかもしれませんが、そうではありません。これは、医師としての感想です。

タバコを吸えば肺がんになると、一度や二度聞いたことがあるという程度で、自分のことではないと思っってしまうようです。喫煙によるがんは、肺だけではなくありません。

- 口腔・口頭
- 食道
- 肝臓
- 胃
- 膀胱

○子宮頸

というように、内臓の各部位でがんが発生しやすくなります。その他の病気の原因にもなります。脳卒中、歯周病、慢性閉塞性肺疾患、呼吸器低下、結核、虚血性心疾患、腹部大動脈瘤、末梢性の動脈硬化、2型糖尿病の発症、早産、低出生体温・胎児発育遅延などの原因にもなります。喫煙は、自分自身も、子どもも、それに他の人も不幸にするだけで、何一つ良いことがないのでですから、止めるに限ります。

健康保健で治療できる「禁煙外来」のすすめ

お子さんが誤ってタバコを飲み込み、治療に立ち合う方はその後禁煙される事が多いです。受けた衝撃は大変なものですから、タバコとの関係を断とうとされますが、我が子の命にかかわる事態に遭わなくても、禁煙外来で治療されることをおすすめしたいことです。

禁煙外来は、禁煙を目指す人に禁煙指導や禁煙補助薬による治療を行います。2006年4月から禁煙治療に健康保険が使えるようになり、一定の条件が満たされれば健康保険が適用されます。

条件とは、「今、すぐに禁煙したいと考えていること」「禁煙指数(1日の喫煙本数×喫煙年数)が200以上であること」「スクリーニングテストでニコチン依存症と診断されること」の3つです。喫煙は、単なる習慣ではなく、ニコチン依存症による病気という判断によって、保険診療で禁煙治療ができます。治療費は3

子どもの受動喫煙

5歳未満の子どもが6万人以上、呼吸器感染症で犠牲になっていることを世界保健機関（WHO）が発表したのは3年前（2019年）のことです。

症状を聞くと、軽い胃腸炎であることが判ったので、今のままなら大丈夫ですと言って、水の飲み方をお伝えし、水が飲めなくなったらいつでも受診してください、と話しました。それは、日本では当たり前の話による受診相談です。ところが、そのご婦人は、「あなたはドクターですか」と言われたので、私は「はい、ドクターです」と答えると、電話の向こうで号泣されたのです。

どうされましたかと聞くと、「私が入っている医療保険は、医師と直接話せるタイプの医療保険ではないし、まして夜中に相談できる医療保険ではない」と言われ、「日本は何とない国なのでしょう」と言ってお感動されました。

日本では、国民皆保険は国民にとって大事だと言われていますが、そうではなく、医療従事者にとって国民皆保険はすごく重要なものだと思います。そのことがあった後、日本医師連盟から参議院議員の公募のお話をいただきました。私の父は国会議員であったので、国会議員の家



写真・ANNNewsCH

割負担の場合、12週間の治療になると約2万円になります。タバコを購入するため、1日に1箱吸うとして、治療に要する12週間で換算すると、約4万5000円です。禁煙外来の治療費は、その半分程度で済みます。さらに良いことは、タバコを止めた後、タバコ代が要らなくなるので、健康と家計の両面から、大いに喜ばれることとなります。

このようなことも、健康保険で治療できるようになったからですが、日本の国民皆保険制度は、各国の医

療従事者も、一般の方々も優れた医療制度であると言って羨みます。ことに、新型コロナウイルスが世界各国に拡散したことで、日本の国民皆保険制度に一層関心が高まり、高く評価されています。

国民皆保険制度とは、日本の国民の誰もが全国の医療機関で公的保険によって医療を受けられることです。ただし、日本人の高齢化によって医療費が増大し、医療保険制度の財政状況が逼迫しているのは確かです。

**病院勤務の小児科医が
国会議員になった経緯**

実は、私が勤務医を辞め、国会議員になったのは、国民皆保険制度を護らなければならぬと思ったことが大きなきっかけです。東京・虎の門病院の小児科で勤務医として働いている時でした。当直の夜中に、ハワイのご婦人から電話が掛かってきて、一人娘が日本にホームステイをしているけれど、お腹が痛くてどうしたらいいのか分からない、ということでした。

族はどれほど大変なことか、身を持って知っていたので、大変悩みましたが、公募に応募しました。

国会議員の子どもとして、私は幼い頃から人の目を気にしなければなりませんでした。父が引退し、国会議員の家族からフリーになった時は、母と二人で大喜びしたのですが、国民皆保険を護らなければならぬという思いが強くて、平成27年に参議院選挙に立候補しました。それには、幾つかの理由がありました。今にして思うことは、「天命」であったということでした。

現在は、国会議員として「子ども庁」の創設に向けて取り組んでいます。子どもの『命』を護り、子どもの成長を社会で護るために、一貫した環境整備が求められています。その整備の中に、タバコの害によって、身心の成長を阻み、命を危険に晒すことがあってはならないことです。

【本稿は、令和3年12月10日、自見はなこ国会事務所でのインタビュー要旨です。本誌編集室】